



第41号

平成20年2月

発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
☎ 0478(52)1000

文化の日、千葉県より表彰される



千葉県議会議事堂にて。前列中央が高橋賢一理事長、後列右が堂本知事、その左が園城寺達雄さん。

☆☆☆☆☆☆
平成十九年十一月三日の文化の日に「小野川と佐原の町並みを考える会」が「地域観光振興に尽力した」功績により、千葉県知事より栄えある表彰を受けました。

新春に語る

―新春にあたり「NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会」の高橋賢一理事長に抱負を聞きました。

○文化の日の表彰について
昨年の十一月三日、当会が堂本千葉県知事より「文化の日の表彰」を受けました。

式の日、千葉県の担当者からは、「この賞はとても意義あるもので、「観光立県をめざす千葉県」が、特に今年度に新設した地域観光振興功労者部門の名誉ある最初の受賞です」とのおほめの言葉をいただきました。

私たちが佐原の町並み保存運動が平成元年「ふるさと創生資金」の使道アイデア募集からスタートして以来二十年、市民の皆様のご協力によってここまで来ることが出来ました。

○新年の新しい試みは
新年に入り、市内のクラシッ

つ自慢のメニュー写真が掲載された携帯し安い、折込式のパンフレットです。(のれん班)

着々とまちづくり

九月、伝建地区のみなさんに参加していただき、防災訓練。十一月、骨董市にあわせ建物公開を行い、市民はじめ観光客の

みなさんに伝建地区指定家屋の内部を見ていただきました。二月二十六日には真壁町へのバス見学研修を企画しました。電線地中化も実現に向けて進行中。また九十四年前の三菱館内部のバーチャル・リアリティ映像(筑波大学開発)が二月一日より公開中。(まちづくり班)

ク・カー・コレクター香取孝さんと石岡市在住の小嶋幸夫さん(兼ドライバー)のご協力により一月から三月まで「ボンネット・バス」をのべ十二日間にわたり走らせるといふ計画が具体化しました。

主に日曜日の午前と午後の二回、交流館から香取神宮、町並みをボランティア・ガイドと共に巡るほぼ一時間半のツアーですが、とても好評でキャンセル待ちの状態が続いています。



▶ボンネットバス
忠敬橋に行く。

「香取広域交流拠点整備計画」が着々と進められています。これは佐原の歴史や景観を生かそうとする国土交通省の一大事業です。

佐原の景観の素晴らしさや観光客の数も増え、日本全国から注目度も、益々高くなっています。私たちの町の中にも少しずつ変化が目に見えて「追い風」が吹いて来ているこの時期にあたり、私たち「小野川と佐原の町並みを考える会」は、今年も地域振興のために努力を続けてまいります。



正月6日、骨董市で新年の挨拶。

町並み交流館への

来館者の増加が意味するもの

佐原町並み交流館々長・小林和男

小・中学生の学級新聞・川柳、案内ボランティアの方々への礼状などです。

それが交流館一階ホールの展示を一年中途絶えることなく継続させることに結びついていきます。展示の打ち合わせや展示会を見学するために何度も佐原へ足を運んでいただいて、また、新しいコミュニケーションが生まれてきます。

市民が手を取り合って

交流館長として二年目、交流館が市民の期待に応えられるように、各層の方々とのきめ細かい交流を盛んにしていきたいと思っております。

年間十万人を突破か

交流館への入館者

平成十九年四月から本年一月末までの交流館への入館者数は、八一、四〇九名
前年度一年間の総計が 八六、〇八四名
でしたから、今年度の入館者は前年をはるかに上回ることを予想されます。夏の祭礼の三日目が台風で中止になったことを考慮すると、さらに上乘せがあったものと予想できます。

交流館二階の施設の利用状況
一月までの利用団体は 五五七 団体
総人数は、九、六七六 名

封筒の寄贈

昨年十一月十五日、佐原ロータリークラブ会長・菅井源太郎さんはじめ役員の方々が交流館を訪れて、当NPO法人に対し、A4版名入れ封筒千五百枚を寄贈していただきました。

第三十回全国町並みゼミ

伊勢大会報告

「伝えよう心とかたちのまちなみ文化」をテーマに、昨年九月十四、五、六日の三日間、伊勢市で開かれました。

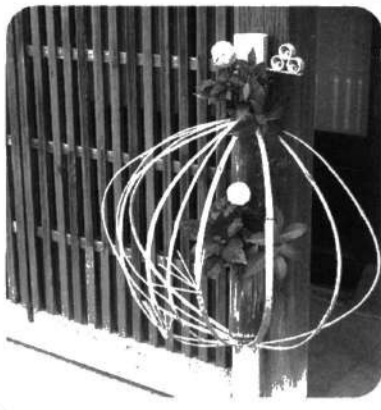


▶伴走車プリンス・グロリア(昭和42年製)と共に。

点景佐原の町並み風物詩

おかみさん会の二代目会長・平塚智子さんに新春の企画や昨年の事業についてお話をうかがいました。

お正月に、「小野川と佐原の町並みを考える会」との共催で、八十軒以上の門前に、かつて佐原の町で盛んにおこなわれていた「竹飾り」を飾ることが出来ました。



▶復活した、正月「竹飾り」

ていねいな説明を

ありがとうございます

ボランティアのみなさんへ
お忙しい中、私たちの案内をしてくださりありがとうございます。おかげで佐原の町なみや佐原のことや伊能忠敬のことなどがよくわかりました。

伊能忠敬記念館に行った時はとても楽しかったです。

あと、説明とかもとてもていねいにして下さって本当にありがとうございます。

(袖ヶ浦市蔵波小四年・女子)

「古里づくり」に

努力します

先日の佐原観光では、古い町並みをご案内いただき有難うご



「獅子舞」で厄落とし

一月六日、「恵壽美會(えすみかい)」が伝統芸能「獅子舞」を昨年に続き町並みで披露、八坂神社に神保佐香枝さんの獅子舞が奉納され、午後四時過ぎ、



▶八坂神社境内で毎月第一日曜日開催されている骨重市の盛況

観光案内に感謝の手紙 (その2)

(その2)

私達も「高洲生まれの子供達」のため、夏祭りを中心に「古里づくり」に力を入れ頑張っています。(千葉市美浜区 高洲洋々会広報部長)

私達も観光案内を

勉強します

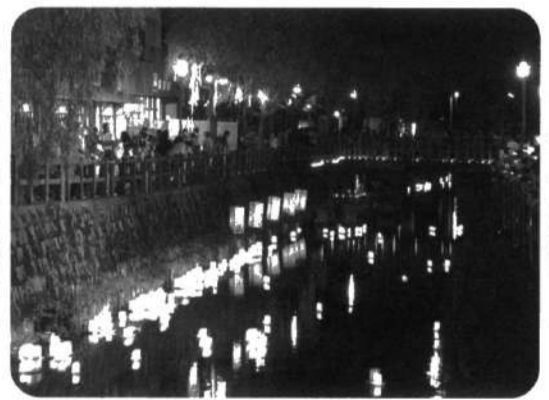
また、佐原に来たいです。先日は佐原のご案内をいただき表現されていて、我々の胸にピ

「雛めぐり」に招き布
二月九日から第三回「雛めぐり」が三月二十三日まで佐原町並み交流館を中心に四十ヶ所以上で公開中です。



小山市の重要文化財・下野しほり紙を使った「下野ひとがた」

昨年の記憶に残る行事
八月のお盆の週に行なわれた「第二回目の夕涼みの会」は、市民の協力で大成功でした。



▶小野川の灯笼流し

大正琴

三月二日(日)

ポプラ琴の会コンサート

午前十一時と午後一時三十分

(二回公演)

場所・佐原町並み交流館

一階 ホール

ンピンと響きました。

またみなさんの味わいのあるポイントをおさえた案内に「誰かを案内して佐原にもう一度来たい」という思いがわきあがりました。

野田市をどのように案内してあげようかと考えている私たちにしてもスゴイので、自分には出来ないのではと今から心配ですが、吉田さんから「まず言葉に出して」と励まされ、勇気が出ました。

これからも学習を重ねてガイドボランティアをスタートできればと思っています。
(野田市「むらさきのさと」ガイドボランティア講座一同)

町並み案内 その二

その二

新しい世代の案内ボランティアに期待

(NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会・副理事長)

吉田昌司さんに聞く

佐原の良さを
感じてほしい

平成八年、佐原の「重伝建」指定が予想される段階になり、「佐原はただの観光地ではない。小江戸といわれた町の本当の良さは、うわべを見ただけではなかなか理解ができるものではない」と考え、観光ガイドの必要性を強く感じたのでした。

ガイドの養成講座の開設

まず、市社会教育課に「案内ボランティア講座」

開設をお願いし予算をいただき、市の広報誌などで募集の呼びかけをし、三十二名という予想外の受講生の参加により開始されました。

佐原の歴史、史跡など、初めは佐原全域に渡って学習しておりましたが、次第に市の中心部にその焦点をしばっていき

ました。
難しいことではない
お客様のガイドをするということは、別に特別なむずかしい話をするというわけではないのです。自分で勉強して、理解したことを話すだけです。その内容には当然個人差があつていいわけです。ただ、人前で声を出して聞いていただくということは、初めはなかなか大変でしょう。



こうして私達が蒔いた種が芽を出して、町の活性化に十分寄与してきたことが立派に証明されました。

大きな木に育ってききましたので、この木を益々大きくし、緑の葉を広げて枝を伸ばしていくためには、次世代の人々の参加が欠かせないのです。

若いみなさんが「町並み学習」を生徒学習の一環ととらえて、町並みガイドの活動に積極的に参加していただきたいのです。

今後、案内ガイド資格が公認されて、プライドをもって案内を期待していただきます。

(写真は、寒風の中、伊能忠敬旧宅書院前で、熱心な見学者に説明をする吉田昌司さん)